

## 第185回（平成29年2月19日施行）

### 3級

#### 第1問

仕訳の問題です。資金調達や未払金，給料支払いとこれに関わる税金の処理などこれまでの3級の問題を踏襲しています。これに加え，今回は，実務で必ず処理しなければならない消費税の処理を取り上げました。これについて既に消費税に関わる仕訳は解答欄に記入されているので問題はないと思いますが，我々が日常見ている事象（レシートや納品書）をどのように処理するかを体得することは簿記を勉強している以上，必要な事でしょう。

#### 第2問

期首貸借対照表から損益計算書を経て期末貸借対照表に至る会計の構造を問うた問題と元帳記録を見て経営管理上必要な情報を誘導できるかを問うています。仕入勘定で，どのように売上原価が計算されたかをイメージできることが必要です。売上総利益は，売上原価が計算できれば， $\text{売上高} - \text{売上原価} = \text{売上総利益}$  という算式に当てはめれば計算できます。

#### 第3問

入金伝票の記入を総勘定元帳と得意先元帳に転記できるかを問うています。入金伝票として今回は敢えて市販の伝票を示しました。実践力を身に付けるためです。市販の伝票では，入金先つまり人名が表題となり，勘定科目はその下に記入することになっており，消費税は，この中に既に印刷されています。因みに，消費税を考えると，この取引は販売時に，

(借) 売掛金	10,800	(貸) 売上	10,000
		仮受消費税	800

問題の回収時に，(借) 現金 10,800 (借) 売掛金 10,800 となりますので，消費税に関わる勘定科目を見え消しするか，自明な事として金額欄に記入しないかです。転記が確実に行われたことを明示するために，丁数欄に伝票の番号 (No.9) を記入することも重要です。

#### 第4問

商品有高帳の記入の問題と，この情報の経営上の利用の問題です。商品有高帳をつける在庫係のそもそもの仕事は在庫不足が出ないように管理することでしょう。そうならば，数量の管理が商品有高帳の第一の任務です。今回の商品有高帳はこの立場での出題になっています。その後の商品有高帳の役割は当該商品の営業利益への貢献度の測定です。これは当該商品の粗利と直接かかった販売費により計算されます。このためには，期中の払出原価総計の計算が意味を持ちます。このように問題は実践的な能力を問うています。

## 第5問

精算表（8桁精算表）の問題です。決算に際しては問題文にあるように、各勘定の数値が会計上の要請に合っているかどうかを確認しなければなりません。とくに事業活動を見ようとするときには、とくに営業上の費用ならびに支払利息勘定が当期の費用の金額になっているかを確認することが重要です。例えば、給料支給日が毎月25日だとすると、その日から月末までの給料は未払い状態（未払給料勘定の出現）になっている筈です。同じように支払家賃については、家賃は通常、翌月分を前払いしますので、支払額から前払分を控除しなければ（前払家賃の出現）、当期の正しい家賃の金額にはなりません。これまでの出題では、これらの調整を無視してきましたが、本来は、このような調整が行われなければなりません。今回は、これまでの試験範囲に留めて、4項目のみにしております。

なお、株式会社の場合、利益の処分を始め資本の増減に関わることは株主総会で行われます。今回は、株式会社を意識し、個人企業で許される引出金の整理の問題を省きました。